

（３）情報インフラ

○学術資料の記録・保管のための配慮の適切性（Ｂ群）大学院

草苑館の仮設の貴重書庫では古書などの貴重な学術資料の保管態勢がとれていないことがかねてより指摘されていたが、新たに貴重資料室を設けた聡恵館（京田辺キャンパス図書館棟）の増改築が 2005 年 10 月に完成した。この貴重書庫の収容冊数は、4,850 冊と少ないものの、温度や湿度の調整が可能な空調装置を備えている。また、火災時に備えて窒素消火装置を設置した。図書館の火災の際もこの装置により資料を損なうことなく消火作業が行える。この部屋は、一般の学生の立ち入りを禁止とし、貴重な資料の保存をはかるための部屋として利用している。貴重資料のうち洋図書の一部は、桐箱を上回る高い調湿性能をもった調湿収蔵庫にて保管している。和古書については中性紙の保存封筒に防虫剤とともに封入している。このように保管の態勢は揃い始めてきているのだが、時経過とともに経年劣化してきた革表紙、虫食いによって損じた紙などの資料の修復態勢がまだなされていない。

2006 年度夏期休暇明けに京田辺図書館地下書庫にて書架に配架されていた図書のうちおよそ 250 冊にカビが発生していることが分かった。詳しく調査した結果、カビの原因は夏休みの一斉休暇期間、長時間の空調停止を行ったため、地下コンクリート躯体等から出る水蒸気が室内の湿度を上げ、カビが発生しやすい環境になった事が原因であろうとされている。この経験から、以降は休館時にも温度湿度を監視し、空調を運転することとしている。

○国内外の他の大学院・大学との図書等の学術情報・資料の相互利用のための条件整備とその利用関係の適切性（Ｂ群）大学院

隣接の同志社大学総合情報センターと相互利用協定を結び、お互いの教職員・学生などの利用者が、一切の手続きなしに両大学の図書館を利用できる体制をとっている。

また、私立大学図書館協会西地区部会京都地区協議会にて加盟大学の図書館での自由な閲覧を可能にする共通閲覧証を、音楽図書館協議会にて相互利用協約館での閲覧を可能にする共通閲覧証を発行している。これらの共通閲覧証を使用することで、本学の学生・教職員が特別な手続きをすることなしに当該の参加館に入館し、学術資料を利用することができる。これら共通閲覧証を利用することで、当館利用者の学術情報へのアクセスの機会が大きく増えている。

国公私立大学図書館間文献複写に関する協定に基づき、NacsisILL を利用して全国の大学図書館と協力学術資料の相互利用を行っている。これにより、全国の大学図書館の保有する学術資料の利用が当館でも広く行われている。

さらに NacsisILL から OCLC を経由しての米国との相互利用も開始した。国内では調達が不可能な資料へのアクセスもこれで可能になった。

これらの相互利用制度のうち、NacsisILL については 2004 年度 2 月にリプレイスされた新図書館システムに搭載された Web サービスを通じ、利用者が個々の PC の画面から手続きを行うことが出来る。

同志社大学総合情報センターとの相互利用協定による相互利用では、本学図書館から同志社大学所属の者へ 8,649 冊、同志社大学総合情報センターから本学所属の者へ 7,516 冊貸出があった(2005 年度)。学生数や構成人数の比からこの件数を考えると、本学図書館の負担が大きく、適切性を欠いているといえる可能性がある。

NacsisILL などを通じての相互利用は、貸出が 368 件(京田辺 282 件、今出川 86 件)、借受が 80 件(京田辺 58 件、今出川 22 件)、文献複写受付が 1,267 件(京田辺 628 件、今出川 639 件)、文献複写依頼が 1,125 件(京田辺 669 件、今出川 456 件)となっている(2005 年度)。2004 年度の統計によると(2005 年度の文部科学省の統計は未だ出版されていない)私立大学図書館でのこれらの値の平均は、貸出が 75 件、借受が 86 件、文献複写受付が 823 件、文献複写依頼が 737 件となっており、借受以外は平均値を大きく上回っている。このことから見ると本学図書館は、本学の構成員のみならず学外へと広く学術資料を提供していることがわかる。

○資料の保存スペースの狭隘化に伴う集中文献管理センター(例えば、保存図書館など)の整備状況や電子化の状況(C群)大学院

相次ぐ学部や学科増設に伴い資料数を増加させたため、図書館の収容冊数不足がかねてより指摘されていたが、新たな地下書庫をもつ聡恵館(京田辺キャンパス図書館棟)の増改築が 2005 年 10 月に完成したことで一応の決着を得た。2004 年度までは両キャンパス併せての書庫収容冊数は、231,875 冊(京田辺キャンパス=55,300 冊、今出川キャンパス=176,575 冊)と貧弱であったものが、工事完成の結果 297,975 冊(京田辺キャンパス=121,400 冊、今出川キャンパス=176,575 冊)と一気に増加した。

今後も、購入・寄贈等により資料の増加が予想されるが、京田辺キャンパス図書館地下書庫は、それを見込んで集密書架および積層書架の導入が可能な設計となっている。現在の収容冊数は、121,400 冊であるが、集密書架・積層書架を導入すれば 458,760 冊まで収容冊数を増加することが出来る。

本学図書館では、本学発行の紀要の全文データの電子化を行っている。この作業は、国立情報学研究所に委託しており、電子化されたデータは国立情報学研究所のサーバーより広く内外に公開されている。公開されているタイトルは、本学学術研究センター発行の「総合文化研究所紀要」、「同志社女子大学学術研究年報」の 2 タイトルである。ただし、論文の作者が、インターネットへの公開を望まない場合があり、その際は該当論文のみを公開しないようにしている。本学所属の教員には論文を広く世に問い成果を広めて頂きたい

だけに残念な状況ではある。

これら以外にも、本学の関連する学術団体が発行する紀要の目次情報の電子化を行っている。この作業も前者と同様国立情報学研究所のサーバーにて広く内外に公開されている。